



モザンビーク 活動報告

2025年6月～2026年5月



ユニセフは、「スクール・フォー・アフリカ」を通じた日本の皆さまからのご協力により、モザンビークで、就学前教育から学校環境の整備、教員の能力強化までを一体的に進める教育支援を展開しています。

モザンビークでは初等教育へのアクセスが大きく改善し、2024年には、小学校の就学率が99%に達しました。しかし、修了率や学習の質の向上には課題が残されています。2023年の初等教育修了率は57.6%にとどまり、4割以上の子どもが小学校を修了できていません。小学3年生で学年相当の読み書きができる子どもは4.9%、基礎的な算数の能力を身につけている子どもは7.7%です。その背景には、貧困、サイクロンや洪水、紛争、教員の高い欠勤率があります。とりわけ女の子は早期の結婚や妊娠、衛生設備の不足で学びの継続が困難な状況に置かれています。

こうした状況に対し、ユニセフは、ナンブラ州・ソファアラ州・ザンベジア州の3州で学習環境の整備を進めてきました。2025年には、子ども同士の学び合いを支える生徒メンター492人が90校で養成され、暴力防止やジェンダー平等を伝える活動が広がりました。また、学校運営を担う学校管理者170人が研修を修了し、17校ではデジタル学習の導入が始まり、約4,250人の子どもたちに新たな学びの機会が提供されています。継続的なご協力に、厚く御礼申し上げます。



日本の皆さまからのご協力で教育支援を実施している地域



教員の育成とインクルーシブ教育 — すべての子どもに学びを



子どもたちに質の高い教育を届けるため、教員のスキルアップ研修に取り組んでいます。2024年から2026年5月までに、インクルーシブ教育^{※1}の研修を受けた教育関係者は**累計813人**（うち女性352人）にのぼります。加えて、月経衛生管理とライフスキル^{※2}教育について**321人**、子どもへの暴力防止の取り組みについて**326人**、心理社会的支援について**370人**が研修を修了しました。

これにより、ゴロンゴザ区・ムアンザ区・デレ区の**3地区の学校**に、インクルーシブ教育・子どもの保護・心理社会的支援・ライフスキル教育の研修を受けた人材が配置されました。車いすや点字教材などの支援機器

も届けられ、教室はより多くの子どもに開かれた環境へと変わっています。

子どもたち一人ひとりの違いに応じた学びを支える教員の存在は、誰もが安心して学び続けられる環境の礎となっています。

※1 障がいの有無にかかわらず、すべての子どもを受け入れる教育

※2 日常に生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な力



就学前教育 — 「学びの土台」を築く

ユニセフは、8週間にわたる短期集中就学準備プログラムを実施し、2024年以降、5～6歳の**子ども合計10,555人**がこのプログラムに参加しました。2025年度は、ゴロンゴザ区・ムアンザ区・デレ区の3地区で、**311人の養成された指導者**の下、**新たに5,012人**（うち女の子50%）の子どもたちが、遊びを通じて学ぶ機会を得ました。あわせて**100校以上**に教材が配布されています。



さらに、保護者向けの包括的子育て教育プログラムでは、**新たに183人の保護者リーダー**が養成され、これまでに**8,810人の保護者・養育者**が参加しました。家庭でも子どもの学びを支える知識や実践が広がっています。

就学前に必要な力を身につけた子どもたちは、自信を持って小学校生活をスタートできるようになりました。就学前教育は、その後の学校の修了率の向上にもつながる、かけがえのない基盤となっています。



安全な学習環境 — 水と衛生、災害に強い学校

ゴロンゴザ区・ムアンザ区の**8校**で、**災害に強い教室16棟**と**トイレ24棟**を建設しました。トイレは2026年1月に、**井戸は7基**が完成し、順次引き渡されました。これにより、これまで整備されていない教室や木の下で学んでいた**1,600人以上の子ども**が安全で丈夫な教室で学べるようになり、**3,018人（女の子1,454人・男の子1,564人）の子どもたち**が安全な水を利用できるようになりました。さらに、井戸の維持管理を担う「水委員会」には8校で**96人の地域住民**が参加し、その半数以上を女性が占めています。地域と学校がともに施設を維持・管理する仕組みが根づきつつあります。

清潔な水と安全な学習環境は、子どもたちの健康と尊厳を守り、とりわけ女の子が安心して学び続けられる環境を支えています。

